

昭和二十年勅令第五百四十二號「ホツダム」宣言口受諾ニ伴ヒ

發スル命令ニ関スル件ニ基ク恩給法ノ特例ニ関スル件(案)

勅令第

號

第一條

恩給法(以下法ト稱ス)第二十一條ノ軍人若ハ準軍人

(以下軍人ト稱ス)又ハ此等ノ者ノ法第七十二條ノ遺族タルニ因  
ル左ノ各號ニ掲グル恩給ハ之ヲ給セズ

一 普通恩給

二 瘵疾ノ程度ガ恩給法施行令(以下令ト稱ス)第二十四條  
ノ第七項症ニ係ル増加恩給

三 傷病年金

四 一時恩給

五 瘵疾ノ程度ガ令第三十條ノ第三目症又ハ第四目  
症ニ係ル傷病賜金

六 扶助料

七 一時扶助料

第二條

軍人トシテノ在職年月数ハ第五條ノ場合ヲ除クノ

外在職年ノ計算ニ付之ヲ算入セズ

法第三十三條ノ規定ニ依リ附スベキ加算年ハ在職年ノ計

算ニ付之ヲ算入セズ

第三條

軍人トシテ退職シタル者ニシテ軍人以外ノ公務員又ハ

2

公務員ニ準ズベキ者ヨリ軍人ニ轉官シタルモノニ付テハ其ノ轉

官ヲ以テ退職ト看做ス

第四條

普通恩給又ハ扶助料ヲ受クル者ニ付第二條ノ規

定ヲ適用シタル爲其ノ者が普通恩給又ハ扶助料ヲ受クル

コトヲ得ザルニ至ル場合ニハ内閣總理大臣ノ定ムル所ニ依リ一

時恩給又ハ一時扶助料ヲ給スルコトヲ得

第五條 瘵疾ノ程度ガ令第二十四條ノ特別項症乃至第六項  
症ニ係ル軍人ニ給スル増加恩給ノ年額ハ法第六十五條ノ  
規定ニ拘ラズ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第一號  
表ノ俸給月額ニ瘵疾ノ程度ニ依リ別表第二號表ニ定  
メタル月數ヲ乘ジタル金額トス

在職年二十年以上ノ軍人ニ給スル増加恩給ノ年額ニ付テハ  
前項ニ規定スル金額ニ二十年以上一年ヲ増スル母ニ其ノ一年

ニ對シ別表第一號表ノ俸給月額ノ三十分ノ四ニ相當スル金  
額ヲ加ヘタル金額トス

第六條 軍人タルニ因ル増加恩給ニシテ瘵疾ノ程度令第二十  
四條ノ第七項症ニ係ルモノ又ハ傷病年金ヲ受ケタル者若ハ受  
クベカリシ者ニハ法第六十六條ノ規定ニ拘ラズ別表第一  
號表ノ俸給月額ニ瘵疾ノ程度ニ依リ別表第三號

表ニ定メタル月數ヲ乘ジタル金額ノ傷病賜金ヲ  
給ス

廢疾ノ程度ガ令第三十一條 第一目症又ハ第  
二目症ニ係ル下士官以下ノ軍人ニ給スル傷  
病賜金ノ金額ハ法第六十六條ノ規定ニ拘ラス  
別表第一號表ノ俸給月額ニ別表第三號表  
ノ月<sup>數</sup>ヲ乘ジタル金額トス

第七條 恩給ヲ受クル者又ハ受クベキ者聯合國最  
高司令官ニ依リ抑留又ハ逮捕セラレタルトキハ  
其ノ間恩給ノ支給ハ之ヲ差止メ又ハ恩給ヲ受ク  
ルノ權利ハ之ヲ裁定セズ

第八條 公務員若ハ公務員ニ準ズベキ者又ハ之等  
ノ者ノ遺族聯合國最高司令官ニ依リ

抑留又ハ逮捕セラレ有罪ノ判決確定シタルトキハ抑留又ハ  
逮捕ノトキヨリ恩給ヲ受クルノ資格又ハ權利ヲ失フ

公務員又ハ公務員ニ準ズベキ者聯合國最高司令官ノ命  
令ニ基キ退職シタルトキハ恩給ヲ受クルノ資格又ハ權利ヲ失フ

第四條乃至第六條ノ規定ハ前二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第九條 前八條ノ規定ハ内閣總理大臣ノ特ニ定ムルモノニ付

テハ之ヲ適用セズ

第十條 本令ノ適用ヲ受クベキ恩給ヲ受クルノ權利ニ付テノ

時茲ハ昭和二十一年二月一日ヨリ進行ス

附則

本令ハ昭和二十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ規定ハ昭和二十年十一月二十四日ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ恩給ヲ受クル者ニ付テハ第一條第二號

第四號及第六號並ニ第二條乃至第六條ノ規定ハ昭和二十

二年二月一日ヨリ之ヲ適用ス

第十項ノ規定ノ適用ヲ受クル恩給ヲ受クルノ權利ニ付テハ第十條

6

ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中昭和二十一年二月一日トアルハ昭和二十

二年二月一日トス

附則第三項ノ場合ニ於テハ權利者ノ請求ヲ俟タズシテ恩

給ノ改定ヲ爲ス

別表

第一號表

階等	大將
俸給月額	五〇〇圓
	中將
	四五〇圓
	少將
	四〇〇圓
	大佐
	三五〇圓
	中佐
	二七〇圓
	少佐
	一九〇圓
	大尉
	一五〇圓
	中尉
	一二〇圓
	少尉
	一〇〇圓
	准士官
	一〇〇圓
	下士官
	九〇圓
	兵
	八〇圓

第二號表

特別項症	八〇月
第一項症	七〇月
第二項症	六〇月
第三項症	六〇月
第四項症	五〇月
第五項症及第六項症	五〇月

第三號表

第七項症	二〇月
第一款症	一〇月
第二款症	一〇月
第三款症	九〇月
第四款症	六〇月
第一自症	四〇月
第二自症	二〇月